令和8年度 第 2 回 気田小学校運営協議会 会議録（要点記録）

1 開催日時　令和8年9月11日（金）14：30から15：30まで
2 開催場所　気田小学校1F 会議室
3 出席委員　山下 晃二 森下 裕子 天野 進 黒川 和久
山下 駒子 森下 薫
4 欠席委員　渡邊 雄介
5 オブザーバー　船見 安宏（春野支所） 松本 信子（民生委員児童委員）
山本 俊行（浜松市教育委員会学校・地域連携課）
6 学校　小澤真喜子（校長） 児玉健一郎（教頭）
7 傍聴者　なし
8 会議録作成者　村松 由規子（CS ディレクター）
9 議長の選出　司会の教頭から、議長の選出について意見を求めたところ、森下 薫様より山下晃二会長を推挙する旨の発言があり、全員意義なくこれを承認した。
10 協議事項
（1） 授業参観や学校の取り組みから、学校・家庭・地域でできること
（2） 浜松市教育委員会より

11 会議記録
司会の児玉健一郎教頭から、委員の参加者が規定の数（7名中6名）に達しているため、会議が成立する旨の報告があった。

（1） 授業参観や学校の取り組みから、学校・家庭・地域でできること
① 授業参観（14：00～14：30 3・4年 学活 5・6年 道徳）の感想
○ 施設の見学に当たり、質問したいことを、大勢の児童が進んで発表しようとしていた。（森下 薫委員）
○ 全体的に落ち着いていて、発表するときの姿勢がよく、教師の話もよく聞いていた。一方で、発表をするときの声が小さいと感じた。（黒川委員）
○ 始業5分前には準備をして静かに着席していた。また、複式の授業は初めて見た。3・4年生は楽しそうな雰囲気だった。教師の投げ掛けにも反応がよかった。（山下 駒子委員）
○ 和気あいあいとしながらも、落ち着いて授業に臨んでいた。やはり発表をするときの声は小さいと感じた。（松本 信子様）
○ 3・4年生は元気、5・6年生は落ち着いているという印象を受けた。授業の内容によっては変わるかもしれないが、成長の過程が見られた。（船見 安宏様）
○ 子供たちが頑張っている様子が分かり、ほほえましかった。私が小学生の頃は人数がもっと多く、一つの教室で各学年に分かれて、教師が行ったり来たりして複式授業を行っていたが、現在の複式授業はどのように行われているのか。（天野 進委員）

○　今回は、両学年同じ内容の授業であったが、それぞれの学年が異なる内容を学習するときは、担任と支援員で学習をしている。また、部分的に複式を解消している。（教頭）

○　5･6年生は落ち着いて授業に取り組んでいた。自分なりによく考えていて、5･6年生らしい発言をしていた。3･4年生は和気あいあいとしていた。少人数での授業より、複式で授業をすることで、新しい発想が生まれるのではないかと感じた。

（森下　裕子委員）

②　地域の人材活用･地域の方との触れ合いの場の設定について

＊グループ協議を行った後、全体の場で発表をした。

○　元旦の挨拶を子供たちと一緒に地域で行う、お寺で座禅や写経を体験する、文化センターの講座で羊毛の手芸を受講している方を講師に招く、春野町の銘菓「青ねり」を作る体験など、よいのではないか。（黒川委員）

○　運動会で春野音頭を踊るのもよいと思う。（山下　駒子委員）

○　人材を発掘するのは難しいけれど、竹細工、書道等プロフェッショナルな方はいらっしゃいますので、情報を収集していくことは大切だと思う。

また、校区内では、祭典が分散して行われているので、1 か所にみんなで集まって屋台を引いたり、運動会で毎年踊っているソーラン節を披露したりするのもよいと思う。山いき隊（浜松市と連携）として在住している方を招いて得意分野を生かした活動もできるのではないか。

産業祭では、ステージが設けられる。子供たちの発表の場となればよいが、土日開催のため、教員の引率は難しいと考える。この課題を保護者でクリアして子供たちが発表できれば、人も集まり盛り上がると思う。（船見　安宏様）

○　以前は、教員引率の下、文化祭で子供たちが発表をしていた。学校で学習発表会は実施しているが、地域の方は、来校しにくいと思う。（森下　薫委員）

○　子供たちが地域に出て学習する機会が設けられているので、地域を散策しながら子供たちの声を聞かせるのもよいと思う。（森下　裕子委員）

（2）　浜松市教育委員会より　学校･地域連携課　山本　俊行様

気田小学校では、1学期の実践を見ても、体験のテーマパークのように、地域の方々から、多くの支援が得られていることが分かった。子供の知恵というものは、様々なことが分かるということと同時に、考えを巡らせたり、考えたことを行動に生かすということである。子供の知恵を育むためにも、地域の方々の触れ合いを通した活動は、大変有意義なものとなっている。

また、「児童自身が、頑張っていることを自覚できていない。」という学校アンケートの結果から、改善策として「振り返りの充実」を挙げているが、子供が、「どこまで分かって、どこから分からない。」ということを安心して言えるようになるということは、とても大切なことであると考える。